

# 平成30年度下半期学校評価・学校生活・自己評価アンケートの結果と分析

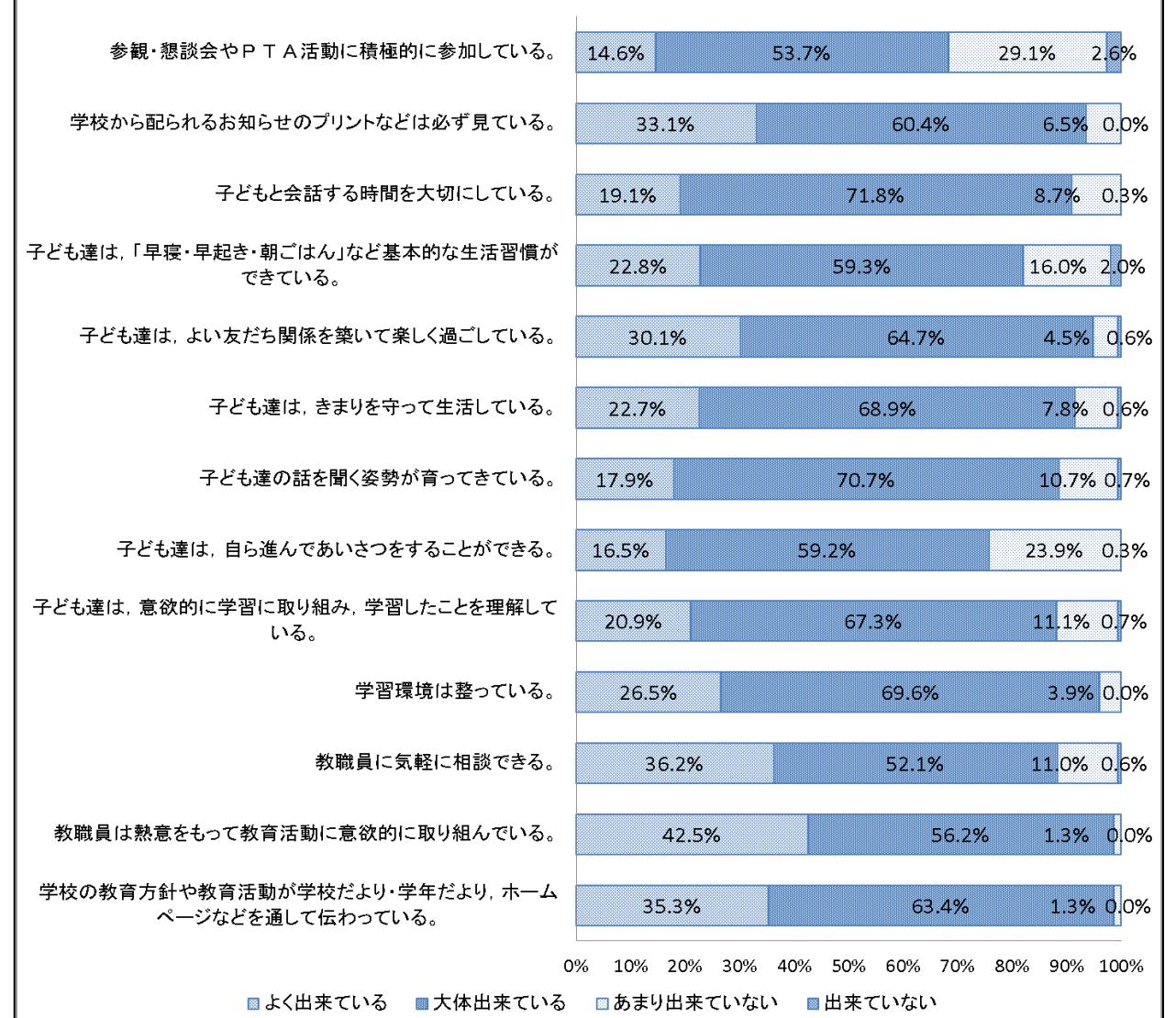
平成31年3月18日  
京都市立嵐山東小学校  
校長 河野 由佳

下半期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。児童数323名（アンケート実施当時）に対して、保護者の回答数（マークシート）が311件（回収率約96%）だった結果から、上半期と同様、保護者の皆様の学校に対する関心の高さと期待の大きさが伺えます。

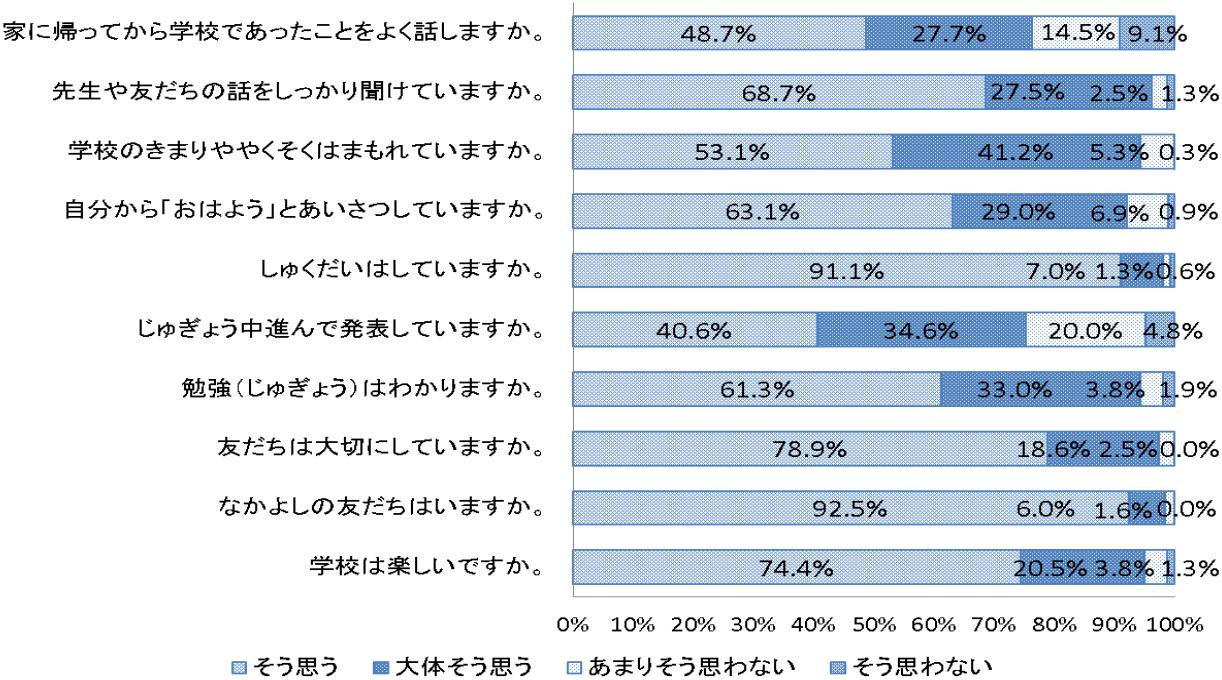
今回もアンケート実施と同時に、子どもたちには学校生活アンケート、教職員には自己評価アンケートを実施しました。それらの結果が、以下の3つの棒グラフになります。結果と保護者の方々の自由記述から、分析し報告させていただきます。

## 1. 結果

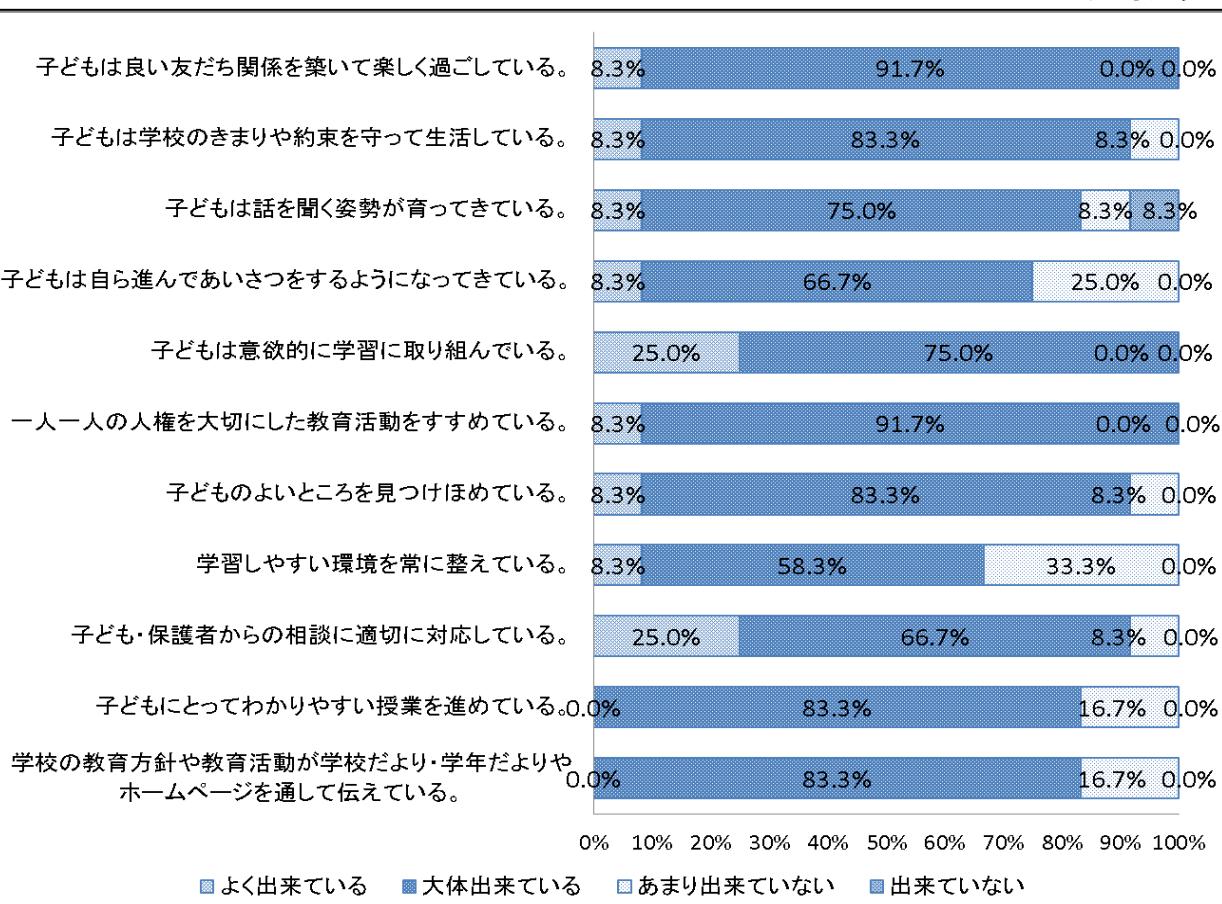
### 保護者



### 児童



### 教職員



## 2. 分析

### 1) 学習面

- ・教職員は熱意をもって教育活動に意欲的に取り組んでいる。(保護者)

保護者アンケートの中で、「よく出来ている」の割合が最も高かった項目です。自由記述からは、

- 「大嫌いだった水泳も担任の先生のおかげで大好きになったようです。一人一人をしっかり見て的確な指導をくださり、毎日少しづつ伸びていくことが自覚できています。」
- 「毎日の授業での理解力も上がりましたが、理解しきれなかった所のフォローがとても良く、積極的に家庭学習に取り組み、理解できなかった部分を補うようになりました。」

など、毎日の授業全般について肯定的な意見が多かったです。また、今回も自由記述の中で最も多かったのは、「外部講師を招いての授業」に関する記述でした。ほとんど肯定的な意見でしたが、中には、

- 「担任の先生方は教科の授業時間を確保するのに苦労されているのではないかと思っています。教科との関連付けを工夫したり、内容を精選したりすることも必要ではないでしょうか。」

という意見もありました。小学校は 2020 年度から新しい学習指導要領がスタートします。「教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる」といったカリキュラム・マネジメントを確立して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ることが求められます。今年度実施した外部講師を招いての授業の内容を精選し、教科等と関連付け系統立てることによって、さらによりよい学校教育を目指していきます。

### 2) 生活面

- ・自分から「おはよう」とあいさつしていますか。(児童)
- ・子ども達は、自ら進んであいさつをすることができる。(保護者)
- ・子どもは自ら進んであいさつをするようになってきている。(教職員)

児童は「そう思う」と回答している割合は 63.1% と高い評価を表していますが、保護者は 16.5%、教職員は 8.3% といずれも児童に比べて低い値を示しています。保護者の自由記述からは、

- 「あいさつを恥ずかしがらず自然と自分からできる子どもたちが多いなと思います。」
- 「面識の有無に関係なく、子どもたちからあいさつをしてもらえて、うれしく感じます。」

- 「まだまだ自らあいさつが出来ていないので、これからは進んであいさつをしてほしいです。」
- 「見守りの方に今になってもなかなか『おはようございます。』とあいさつができません。」

というように、評価は二極化の傾向にあります。「自ら進んであいさつのできる子ども」を育てていくには、今後も学校・家庭・地域が一体となることが大切です。また、あいさつは人権教育の第一歩につながります。教職員アンケート「一人一人の人権を大切にした教育活動をすすめている。」の項目では「よく出来ている」「大体出来ている」の実現度は 100% と、教育実践の中で大切にしている教育の柱の一つです。

## 3. 保護者の自由記述より

- ・授業参観・懇談会ですが、いつも同じ日に全学年を行うのではなく、数回は 1~3 年と 4~6 年に分けて日を設定するなどしてもらいたいです。お仕事をしている方が多く、同じ日にしていることも重々承知なのですが、懇談に参加しにくいです。

⇒来年度は、低学年と高学年の 2 日間に分けた授業参観を 1 回行います。また、懇談会についても「参加人数が少なくて残念」等、必要性についてのご意見がありました。懇談会のもち方についても検討します。いずれも日時につきましては、4 月の始めに配布する年間計画でご確認ください。

- ・学校で購入できる学用品をリストでプリントして欲しいです。

⇒学校で購入できる学用品の一覧を 4 月の学校だよりでお知らせします。

- ・低学年の子どもたちにとって、新学期初日の持ち物の多さは両手に余る程で、紙袋が破れてしまう子もいると聞きます。初日に必ずいるものと、その週の間に持って行けばよいものを分けてお知らせいただくことで、家庭でもサポートできます。

⇒子どもの安全が確保できる範囲での持ち物になるよう工夫して学年だより等に掲載します。

- ・自主学習をすることによって、学校の勉強だけでなく、人との関わり、社会に対していろいろなことに興味を示したり、親に対して質問したりするなど会話も増えました。
- ・自主学習は時間をかけばより良いものに仕上がるかもしれないが、宿題をだらだらとやることにつながりかねないので、30 分以内にできるもの、1 時間以内にできるものと決めて課題を出してほしい。

⇒日々の授業と家庭学習との連動を通して自学自習の習慣化を図ることが、小学校教育において重視する視点の一つとなっています。与えられた課題に取り組むだけでなく、自主学習ノート等を活用して、子どもが自ら予習・復習を意識して課題を選択し、学習計画を立て実行できる力を持つことが求められています。しかし、家庭学習の大切さや内容、方法についてわかりやすく指導とともに、提出物の内容や時期などについて家庭との連携・協力を図ることを大切にしています。他にも実現可能な要望に関しては検討し返していきたいと思います。たくさんのご意見ご感想をありがとうございました。



## 4. 学校運営協議会より（意見の一部を抜粋）

- 愛校心（あらひが愛）が高い児童が多いように感じる。
- 子どもの安心・安全のために児童館と学校が手を取り合っていきたい。
- 子ども食堂での交流をきっかけに、「作る」「食べる」楽しみを見つけてほしい。
- 外部講師を招いての授業の内容を精選することは大切だが、「子どもにとって楽しいかどうか」という考えを一番にもってほしい。また、何を得るのかだけでなく、異空間から学ぶこともある。